
尊う者・尊われる者

龍火

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奪う者・奪われる者

【NZコード】

N4617Y

【作者名】

龍火

【あらすじ】

復讐に走る人々を書いたSS

もはやどこのだれかが始めたともわからない戦争。一いつの軍が敵の町を焼き払い、人々を虐殺していく。

子供を守るために立ちはだかる母親を殺し、泣き叫ぶ赤子を殺し、神に祈る老婆を殺す。

運が良かつたのか、悪かつたのか。生き残った人々は皆、悲しみに暮れていた。燃えて行く己の家や家族を呆然と眺めながら。涙にぬれていた瞳は、次第に憎しみの色に染まって行く。

「殺してやる……」

「あの者たちに復讐を……」

「母さんを返せ……」

「俺の兄ちゃんをよくも……」

「私の愛しい子を……」

復讐ができぬ弱き者は、ただ拳を握つて運命の残酷さを嘆くだけ。

怨み憎しみに突き動かされた者は武器を欲した。そして、それを手に入れるために略奪を繰り返す。死者は生者の重荷となり、生きる糧となる。死者の影は常に復讐者にまとわりつき、彼らの耳にささやく。

「私の仇を取つて・・・」

「俺はあいつに殺されたんだ・・・またやりたいこともたくさんあつたのに!」

「俺の未来を返せ・・・!」

「あの者達が生き残るなんて・・・許さない!」

武器を取つた者たちは復讐を遂げるために、敵国の町を滅ぼし、人々を殺して行く。母はナイフを握り、子供たちは剣を構え、狂気を瞳に宿させて町をさまよいあるぐ。

どれだけ殺しても、もう戻らない最愛の人。わかっている。だが、もう止まらない。もう、走り始めてしまった。ココでやめてしまえば、今まで自分がやつてきたことは何だったのか?それは・・・

「母ちゃん・・・」

憎しみの色に染まつた瞳は、光などうつしたりはしない。その光さえも疎ましく思い、壊してしまいたくなるから。

「何であの子はいなくて・・・」

「私の家族は殺されたのに・・・!」

また膨れ上がりた憎しみの炎は全てを焼きぬくまで消えはしない。街で見つけた、最愛の人を殺した男。復讐者は喜びに口元をゆがめ、男に向かってナイフをふりあげた。

「よくもあの人を……ッあー！」

「なつー？・・・ぐあ・・・・・・」

バタッ

それを見ていたのは、小さな子供。

「ツーー父さんーー！」

あたりに舞う鮮血。あたりに満たされる鉄の臭い。復讐者の笑い声。男の呻き。唇を噛みながら鳴き声を押し殺す少年。

復讐を遂げた男は胸の空虚さを抱えながらフラフラと歩き始めた。

「仇はとつたのに・・・この虚しさは何だ・・・？」

虚ろな目をした復讐者は気が付くことができなかつた。一本のナイフを握つて、瞳に憎しみの炎をともした少年が己の背後に迫つていた事に・・・

奪い、奪われ。殺し、殺され。

憎しみは紡がれ続ける。

(後書き)

高校の宿題で「創作ダンスのストーリーを考えときなさい」と言わ
れて書いたもの。いつまで経っても登録だけして、何も書かないの
も忍びないと感じまして。
駄作ですいません。お手汚し、失礼いたしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4617y/>

奪う者・奪われる者

2011年11月17日17時06分発行